



第26回講演会報告

2月19日(日)午後1時より埼玉県県民健康センター1階大会議室A・Bにおいて第26回講演会が開催され、医師・歯科医師をはじめ看護師、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士、介護施設職員等約120名が参加した。

埼玉県摂食・嚥下研究会副会長 島田篤埼玉県歯科医師会会長の挨拶の後に、埼玉県医師会常任理事の廣澤信作先生と新潟大学歯学部口腔生命福祉学科口腔保健学講座准教授の八木稔先生が講演された。また、埼玉県歯科医師会常務理事(地域保健担当) 深井穂博先生から情報提供が行われた。



島田篤副会長

埼玉県摂食・嚥下研究会だより

vol.34

発行日
平成29年4月20日

発行者
埼玉県摂食・嚥下研究会
事務局
埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

講演 I

埼玉県の「在宅医療提供体制充実支援事業」に関する取り組みの充実・支援

講師 埼玉県医師会常任理事

廣澤 信作先生



県の事業である「在宅医療提供体制充実支援事業」に関する埼玉県医師会の取り組み状況・支援について、埼玉県医師会常任理事の廣澤信作先生が講演された。まず、埼玉県人口構成や在宅医療需要の推移について、今後どのような医療ニーズがあるのか、そして県下での在宅医療が介護関連分野とどのように連携していくのかを説明された。次に、切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制構築と相談支援の必要性の重要性を話された。現在、埼玉

県の事業である「在宅医療提供体制充実支援事業」に関する埼玉県医師会の取り組み状況・支援について、埼玉県医師会常任理事の廣澤信作先生が講演された。まず、埼玉県人口構成や在宅医療需要の推移について、今後どのような医療ニーズがあるのか、そして県下での在宅医療が介護関連分野とどのように連携していくのかを説明された。次に、切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制構築と相談支援の必要性の重要性を話された。現在、埼玉

県医師会は地域へのアプローチを3つの段階で進めている。ステップ1は、在宅医療の基礎固めとして全郡市医師会に連携拠点を設置した。ステップ2では、ICT活用によるネットワーク構築を進めていく。これら平成29年度までにおこない、ステップ3では県の補助事業として進めてきた事業を、平成30年4月から、郡市医師会が協力する市町村の地域支援事業に展開する。

登録システムを構築しているが、往診医を適切に選定できる登録システムでは、往診医が対応できる処置の具体的内容が共有され、依頼患者の状況に応じて対応できるようになっている。各郡市医師会は、3つの項目、すなわち①拠点の設置・運営、②往診医の登録とともに、③在宅療養者の緊急の入院に備えて、毎日1床の「在宅療養支援ベッド」の確保に取り組んでいる。(図1)

さらに在宅医療介護連携ネットワークの導入に向けてICTを活用するため、MCS (medical care station)を採用して埼玉県医師会がより使いやすいものにするためにカスタマイズ作業を行っている。3月下旬頃には、それが完成することを紹介された。これはクラウドのSNSであり、担当の医師がグループ管理者となり、高度のセキュリティを備えたシステムである。(図2)

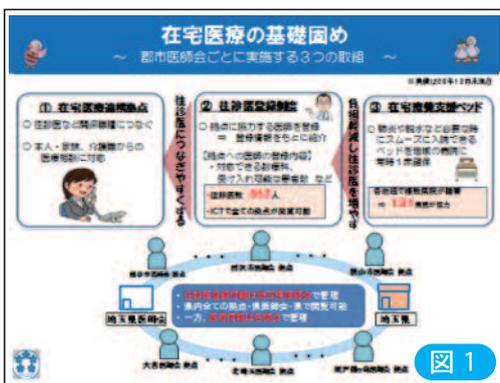


図1

EBMでみた 齲蝕予防法 米国予防医療研究班, 1993

| 予防方法 | 証拠のレベル | 勧告の強さ |
|----------------------------------|--------|-------|
| フッ化物利用 | | |
| 全身応用: 水道 あるいは 食塩フロリデーション, フッ化物錠剤 | I | A |
| 局所応用: フッ化物洗口, フッ化物歯磨剤, フッ化物塗布 | I | A |
| シーラント | I | A |
| 食事コントロール | | |
| 甜食を控える | II-I | A |
| 就寝時の哺乳びん使用をやめる | III | B |
| 家庭における口腔清掃 | | |
| フッ化物未配合歯磨剤, フロス | III | C |
| 定期的な歯科検診 | III | C |

図3

WHOでは、1994年にフッ化物配合歯磨剤の使用を推奨し、すべての人々が毎日、フッ化物配合歯磨剤を用いて歯みがきをするように指導している。

一方、公衆衛生レベルにおいては幼稚園、保育所、小中学校等

ス・ドイツなどに代表されるようにフッ化物添加食塩食塩フロリデーションがされている。(図4)

残念ながらわが国では、京都山科地区においてユーラシア大陸で初の水道水フロリデーションがされたが、現在の日本では全身応用は実施されていない。

ただ、わが国においてもフッ化物配合歯磨剤の普及が、小児期の齲蝕抑制に大きく寄与している。現在では約9割がフッ化物配合のものとなっている。(図5)

フッ化物応用によるう蝕予防

局所応用: 歯の表面に作用して歯質を強化する

- フッ化物歯面塗布
- フッ化物洗口
- フッ化物配合歯磨剤

全身応用: 血液を介して、および、歯の表面に作用して、歯質を強化する。

- フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)
- フッ化物錠剤
- フッ化物添加食塩

図4

5 根面齲蝕に対するフッ化物応用

根面齲蝕においても、近年多くの臨床研究が行われ、フッ化物応用の有効性は根面齲蝕予防や進行防止の面から明らかになってきています。セルフレアによるフッ化物

集団フッ化物洗口の取り組みが全国で普及・拡大している。とくに、最初に実施した新潟県においては大きな成果を上げ、新潟県の12歳児平均齲蝕経験歯数(DMFT)は、全国で最小となっている。その齲蝕レベルが低い新潟県においてもフッ化物洗口を実施することで40~50%の齲蝕抑制効果がある。(図6) ただ、新潟県の小学校でのフッ化物洗口実施率は約60%であるが、佐賀県や長崎県では100%になっている。両県における今後の成果が期待される。

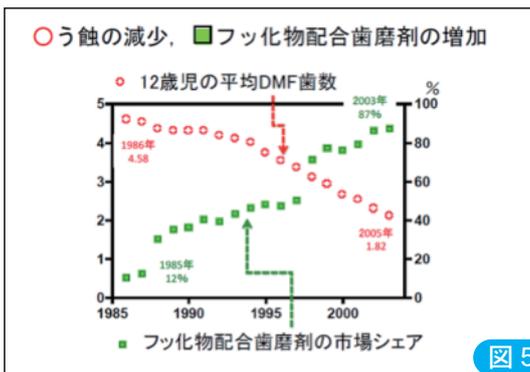


図5

公衆衛生レベルでのフッ化物応用の一つとして、米国では水道水フロリデーションが普及している。なお、この方法はCDC/米国疾病管理予防センターが評価した『20世紀の偉大な10大公衆衛生業績』の一つに挙げられている。

齲蝕は、①罹患者率が高い、②社会への影響が大きい、③個人への

応用の一つとしてフッ化物配合歯磨剤が用いられ、欧米においてはフッ化物濃度が5,000ppmのものも活用されているという。わが国の薬事法では、1,000ppm以下に規定されているため、十分な量の歯磨剤を使用し、使用後には水で口をすすがないことがキーポイントとなる。(平成29年3月17日、5,000ppmの歯磨剤が認可された。)

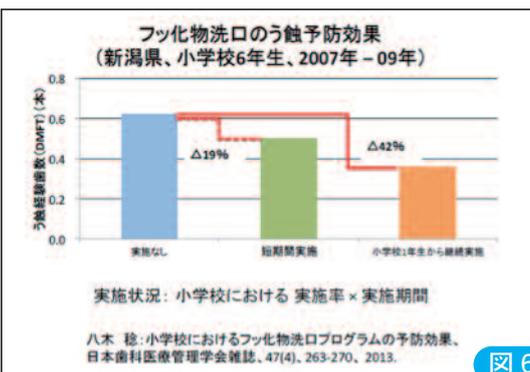


図6

6 ライフコース疫学と口腔保健

歯科疾患は他の疾患に比べて罹患率が高く、文部科学省疾患統計(2014年度)によると、小学校においては齲蝕が罹患率トップの疾患である。歯科疾患の受療率や医療費は特に64歳以上で大きく、通院のために仕事や学校等を休むなどの負荷も存在し、そのうえ全身の健康とも大きく関わる。

ライフコース疫学の観点からすれば、成人期・高齢期の口腔保健状態は、幼少期や親世代からの影響を大きく受け、そのため、若い時代からの社会的決定要因への考慮を含む多様な取り組みが必要と

影響も大きい、④予防可能であり、効果的な治療法が存在するという観点から公衆衛生的な対策が必要となる。

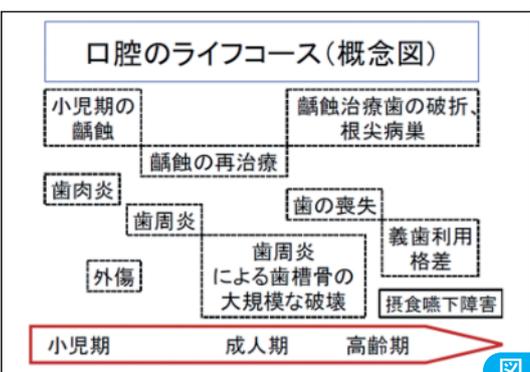


図7

① 高齢者において、咀嚼をサポートする器官として歯が重要である。

② 高齢者の根面齲蝕対策が課題である。

③ 根拠のある齲蝕予防は、フッ化物応用である。

④ ライフコースからみた幼少期からの対策が、高齢者対策につながる。

最後にまとめとして

① 高齢者において、咀嚼をサポートする器官として歯が重要である。

② 高齢者の根面齲蝕対策が課題である。

③ 根拠のある齲蝕予防は、フッ化物応用である。

④ ライフコースからみた幼少期からの対策が、高齢者対策につながる。

なる。歯科疾患の重要性としては、罹患率の高さからくる個人および社会的負担の大きさが存在し、これを多職種の人々が認識することで、歯科の重要性がより多方面で理解され、とくに専門家が理解することにより、ライフコースを通じた取り組みの実現につながる。(図7)

情報提供

2025年に向けた埼玉県の地域在宅
歯科医療推進体制整備事業について

講師 埼玉県歯科医師会 常務理事(地域保健担当)

深井 穂博先生



超高齢社会における社会保障制度維持のために国が示す二つの処方箋(健康政策)は、

1 非感染性疾患・NCDsの予防と重症化防止↓特定健診・特定保健指導等

2 地域包括ケア体制の構築(効果的で効果的な医療・介護サービスの提供体制)↓在院期間の短縮、地域における医療・介護・予防・住まいの一体的提供である。

8020運動がスタートして30年を迎えるが、人生100年時代を迎えるにあたり、生涯自分の歯で過ごすために小児期にはむし歯予防、成人期にはNCDsと大きく関わる歯周病予防、高齢期にはフレイル対策としての口腔機能

の維持・回復が重要である。(図1)

本県においては、約2600名の埼玉県歯科医師会会員の歯科診療所があり、約730万人の県民の歯科治療に従事している。歯科医療提供体制の特徴として、我が国においては国民皆保険制度のもと、県民の約半数が歯科を1年間に受診し治療と予防が一体的に提供されている。

歯・口腔疾患と生活習慣病NCDsのリスクの多くは共通である。



図1

り、歯科医療の特性として75歳以降受療率が急速に低下する。また、歯科標準のある病院は30%弱にとどまり、入院患者に対する歯科医療提供・口腔機能管理が不十分になる傾向にある。

本県は2025年までに75歳以上人口は1.5倍となり、医療ニーズが爆発的に増加し、通院できない重度の要介護者がますます増加することが見込まれ、在宅医療の充実が求められている。そのため、県内に30か所の在宅医療連携拠点が設置されたことは、埼玉県医師会広澤信作常任理事からお話があった。

一方、埼玉県歯科医師会は19郡市歯科医師会からなる。埼玉県歯科医師会では埼玉県在宅歯科医療推進窓口に加え、2016年1月から県内に19か所の在宅歯科医療推進窓口地域拠点を設置し、

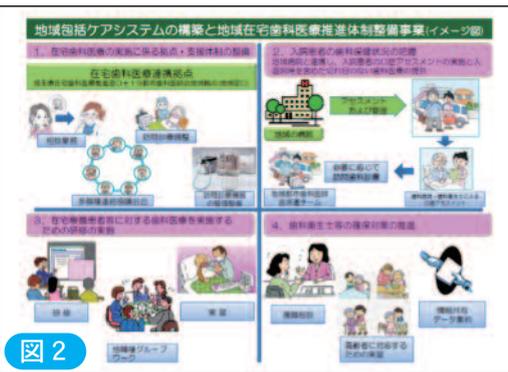


図2

- 1 在宅歯科医療の実施に係る拠点・支援体制の整備
- 2 入院患者の歯科保健状況の把握
- 3 在宅療養患者等に対する歯科医療を実施するための研修の実施
- 4 歯科衛生士等の確保対策の推進の4事業を開始した。(図2)

現在は19在宅歯科医療推進窓口地域拠点に加え5か所の在宅歯科医療支援窓口を設置し、さらに5か所の在宅歯科医療支援窓口の設置をすすめている。

埼玉県歯科医師会では歯科口腔保健の向上を目指し、歯・口のことで悩み患う高齢者を一人も取り残さない社会の構築のために地域包括ケアシステムの構築を進め、歯科口腔保健のシステムづくりを推進する。(図3)

地域包括ケアシステムと歯科口腔保健
歯・口のことで悩み患う高齢者を一人も取り残さない社会の構築

- 1. 外来診療と訪問診療の組み合わせのベストミックス
- 2. 要介護者の病態・生活・多職種連携等に関する研修体制と人材養成
- 3. 地域の在宅歯科医療拠点に歯科衛生士の配置、歯科医師の登録
- 4. 地域単位でチームで要介護者・入院患者へのケア・歯科医療提供
- 5. 生活支援・介護予防に歯科専門職として参画。地域ケア会議等での専門的助言・情報提供
- 6. 基盤整備を行う行政・歯科医師会

図3

埼玉県摂食・嚥下研究会会員数 331名・33団体(2016.11.27現在) ホームページ <http://www.ssek.net/>

唾液のチカラで健康と笑顔を
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

Pepti-sal (ペプチサル)とは「Peptide(ペプチド)」+「Saliva(唾液)」の造語。
唾液のチカラに着目して開発された低刺激性のオーラルケア製品です。
デリケートなお口をやさしくケアし、お口の環境を健康に保ちます。
要介護の方の口腔ケアにもおすすめです。

- 2種類のペプチド配合
- ラクトフェリン配合
- キシリトール配合
- 保湿成分配合
- pH中性域
- 発泡洗浄剤無配合
- アルコール無配合
- バラベン無配合

*1 ナイシン・ポリリジン(清掃補助剤)
*2 (清掃補助剤)
*3 (甘味剤)

T&K ティーアンドケー株式会社 TEL:03-5640-0233 FAX:03-5640-0232 0120-555-350 www.comfort-tk.co.jp

第27回 講演会

日時：平成29年 **7月16日** (日) 13:00~16:30

場所：彩の国すこやかプラザ 2F セミナーホール

基調講演

演題：「多職種連携」

講師：明海大学 歯学部 機能保存回復学講座
摂食嚥下リハビリテーション分野 准教授 **大岡 貴史先生**

シンポジウム

演題：「埼玉県摂食嚥下研究会シンポジウム
～埼玉県の10年後を考える～」

コーディネーター：大岡貴史准教授

シンポジスト：(一社) 埼玉県医師会 ・ (一社) 埼玉県歯科医師会
(一社) 埼玉県薬剤師会 ・ (公社) 埼玉県看護協会
(一社) 埼玉県訪問看護ステーション協会
(公社) 埼玉県歯科衛生士会 ・ (公社) 埼玉県栄養士会
(公社) 埼玉県理学療法士会 ・ (一社) 埼玉県作業療法士会
(一社) 埼玉県言語聴覚士会 ・ (一社) 埼玉県介護支援専門員協会

■定員：200名

※参加者多数の場合はご連絡いたします。

※改めて参加証はお送りいたしません。

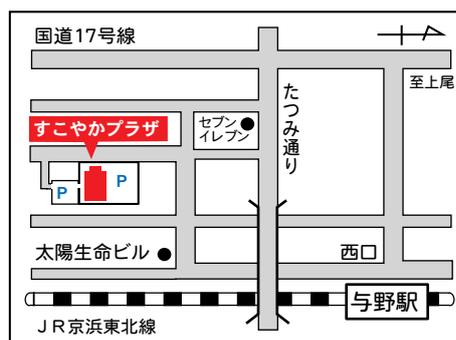
■参加費：会 員 / 無 料

参加費 / 2,000円

■申込締切日：**7月7日(金)**

主 催：埼玉県摂食・嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323



参加申込書

埼玉県摂食・嚥下研究会 (会員・非会員)

※どちらかに○を付けてください

| | | | |
|--------------|-----|-------|--|
| フリガナ | | 職 種 | |
| 氏 名 | | 電 話 | |
| 住 所 (勤務先) | 〒 - | F A X | |

申込書 FAX先 **048-829-2376**